

トレーニングの評価方法・考え方

トレーニングの効果については、トレーニング開始前 / 全クール終了後に役割取得検査（荒木，1988）を実施して評価します。「研究」として効果を評価するには、そのような手続きが必要ですが、各回のトレーニングの回答や普段の様子からも、右図の役割取得能力の発達段階の特徴を参考に、その発達を理解することができます。

役割取得検査で用いる物語課題の概要

木登りの上手な女の子の順子さんは、木に登って遊ぶのが好きなのですが、ある時、木から落ちてしまいました。怪我はありませんでした。それを見ていたお父さんが、もう木に登ってはいけないとつくり叱り、順子さんに約束をさせます。

ある日、隣の太郎くんが可愛がっている子猫が、木に登って降りられなくなってしまいました。まだ幼く木に登れない太郎くんは、子猫を降ろしてくれるよう順子さんに頼みます。

順子さんはお父さんとの約束を思い出して困ってしまいました。

※役割取得検査については、(株)トヨーフィジカル <https://www.toyophysical.co.jp/yakuwarisutoku.htm> にて購入可能

右の図が
お子さんがどの段階に
相当するかを考える際に
参考になります！



トレーニングを実施した4歳児の回答

実施日		
	2019.1.10（トレーニング開始前）	2019.2.20（全クール終了後）
しつもん	こたえ	こたえ
質問① じゅんこさんは、なぜこまっているのかな？	わからない ヒントちょうだい	猫を降ろしてやつてと言われたから お父さんの約束を守り出したらから
質問② じゅんこさんはどうするのかな？木にのぼるのかな？のぼらないのかな？	登る	登らない
なぜ、のぼる（のぼらない）と思うの？	また途中の枝に ひっかかるから	お父さんと木に登らないと 約束したから
じゅんこさんが、木にのぼったとしましょう。もし、お父さんがそれを見つけたとしたら、どんな気持ちになるのかな？	悲しい気持ちになる	困る
なぜそう思うの？	わからない	もし木に登ったら、落ちて 死んでしまうかもしれないから

※質問4、5は役割取得能力の発達段階2および段階3を評定するための質問であり、4歳および5歳児における出現率は0%であることから（荒木，1988）、本研究の参加児の年齢を考慮し実施していない。

※詳細については、本間優子・阿部学・株田昌彦（2021）。幼児向け役割取得能力トレーニング用デジタル絵本アプリ「こころえほん」の開発と評価。教育システム情報学会誌, 38, 363-368. に掲載。

役割取得検査による 役割取得能力の発達段階の特徴

（荒木, 1988 および Selaman, 1995 を参考に作成）

Q. 木に登っている順子さんをお父さんが見たら、お父さんはどんな気持ちになるのかな？

段階 0A

いいことをしているから
嬉しいと思う



ポイント

木に登っている子猫を助けたい順子の気持ちと、木に登って欲しくない父親の気持ちを区別できない。

段階 0B

叱る。
約束を破ったから



ポイント

父親の「心配」にまで考えが及ばないで、「約束」や「叱る」といった外的な手がかりで判断する。

段階 1

お父さんは、ケガをするといけないから心配する。
また落ちたら可哀想と思う。



ポイント

順子の気持ちと父親の気持ちは違うことを適切な理由で理解できる。

自己中心的役割取得

他人の表面的な感情の理解や表情は理解するが、自分の感情と混同することが多い。同じ状況についても、他の人と自分では違った見方をすることに気づかない。

自己中心的役割取得

泣く、笑うなどははっきりとした手がかりがあると、相手の気持ちを判断することができる。しかし、相手の心の奥にある本当の気持ちまでは考えが及ばない。

主観的役割取得

自己の視点と他の視点を区別して、与えられた情報や状況が違うと、それぞれ違った感情を人は持つたり、異なる考え方を持つことが理解できる。しかしながらそれを同時に連づけることはまだ難しい。

Q. 順子さんは、木に登っているところを
お父さんが見たら、お父さんは自分のことを
どう思うと考えるかな？

段階 2

お父さんは、
私がどうしても
子猫を助けたいことを
わかってくれる！

どうしても
助けたいのなら
いいよ！

ポイント

順子の視点に立ちながらも、父親が順子の行動についてどのように考えるのかを予測できる。

Q. 木に登る前に、順子さんとお父さんで
どうすればよいか話し合っていたら、
どうなっていたかな？

段階 3

お父さんが
心配するのもわかるけど、
子猫を助けたいから
登らせてくれ！

順子さんとお父さん、
両方の気持ちを考えると
こうなってたんじや
ないかな？

相互（三人称）的役割取得

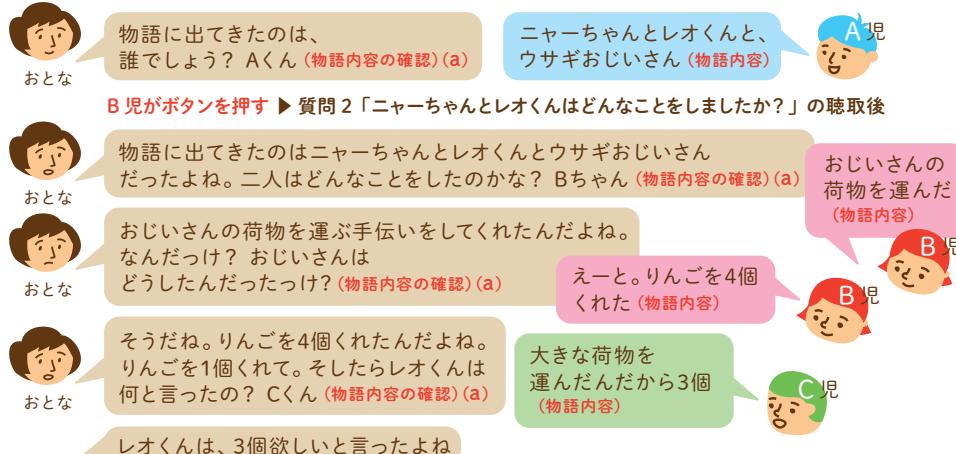
他の人が自分の感情や思考、行動をどう思っているのかを内省できる。お互いの視点から自己と他の者の気持ちを推測することができる。

実際のやりとりの一例

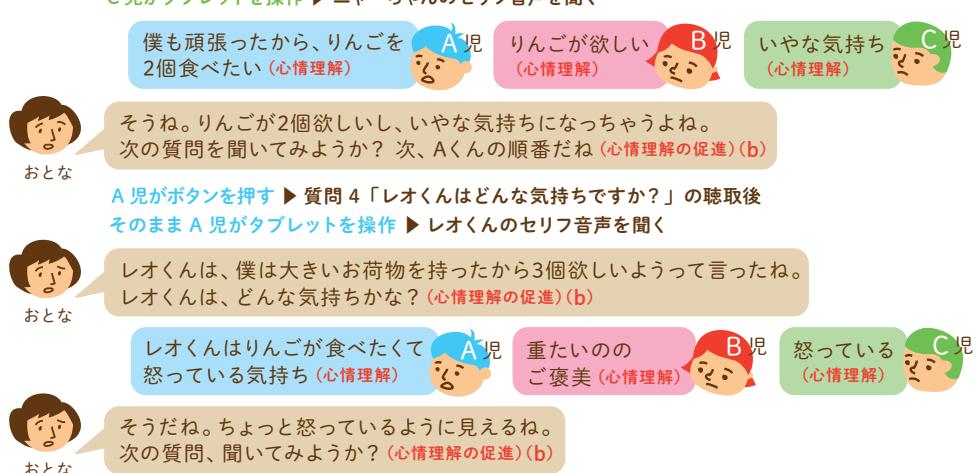
ここでは、子どもたちと大人のトレーニング中のやりとりの一例をご紹介します。

大人による問いかけは、(a) 物語内容を確認する問いかけ、(b) 登場人物の気持ちや立場を考える問いかけ、(c) 各々の子どもの発言を受けて、理由をたずねる、発言を言い換えて整理するなど、理由付けや視点の違いを整理するフィードバックの3点で構成されます。(a) は物語内容の理解を確認し、(b) による心情理解を成立させるための基盤的機能を担う問いかけとして位置付けています。また、(b) については、役割取得能力の促進を目的とする本トレーニングにおいて、中心的な介入要素であり、直接的に登場人物の心情を問いかける形式に限らず、「どうしたらいいと思う?」のように、登場人物の立場に立って考えさせることを目的とした問い合わせも含めます。やりとりの例では、(a)、(b)、(c) もそれぞれ示しています。

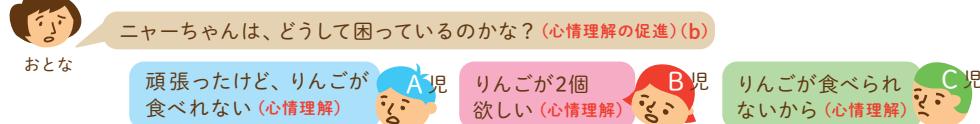
A児がボタンを押す ▶ 質問1「お話に出てきたのは、誰と誰でしょう?」の聴取後



C児がボタンを押す ▶ 質問3「ニャーちゃんはどんな気持ちですか?」の聴取後



B児がボタンを押す ▶ 質問5「ニャーちゃんは困ってしました」の聴取後



C児がボタンを押す ▶ 質問6「2人で何個づりんごを分けたらいいですか?」の聴取後

